

未来を創る「選択」の力

常務取締役 編集長 島田 浩



新春のお喜びを申し上げます。

昨年もお客様はじめ、生産者の皆さま、お取引先各社の皆さまにはたくさんのサポートを頂きましたこと、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご愛顧の程、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

2016年も波乱と共に明けた感がございます。TPP、戦争、原発、秘密法、マイナンバーなど、自然食や自然な暮らしを志向する人々の思いと真逆の方向に世の中が進んでいます。しかもここ数年来どんどんそれが加速してきているかのようです。いったい私たちはどうすればよいのでしょうか？

幸い昨年は、友人やお客様、人生の先達から、貴重な助言やアドバイス、資料や本などご紹介いただき、どうしてこの世界がこうなっているのか、概ね理解できるようになってきました。どうやら有史以来、あるいはそれ以前から続く人類支配の隠された歴史があり、民衆の知らないところで物事が決められ操作されているようです。意図的に問題が生み出され、それを解決するために新たな戦いや管理が生み出されていく構図。けっしてマスコミや教科書では得ることのできないそれらの情報を知る事で、これまで抱えていた胸のモヤモヤもずいぶんスッキリしてきました。それを知った上で、じゃあ、自分はどう動くのか、それが試される年の初めです。

もうひとつ貴重な助言を頂きました。それは、「目の前の利益や名誉に惑わされる事なく、物事の“本質”を求めよう」という言葉でした。振り返れば妥協も多い人生です(笑)。

ところで、「物事の本質」とはいったいどういう事でしょう？ 辞書によれば「物事の本来の性質や姿。それなしにはその物が存在し得ない性質・要素」とあります。自然の中に在るもの、見えない宇宙の仕組み、現代では教えられないことのない先住民の知恵……。人は死ぬばそれで終わりなのか？ それとも存在は魂として生き続けるのか？ 人生の意味とは？ 本当の幸せとは何か……。考え出せばキリがありません。しかしどんな事にもきつと答えはあります。そのヒントはまほろばに入った20数年前に気づかせて頂きました。

「すべての存在はこの宇宙の中でひとつにつながっ

ている。」

毎度手を変え品を変え、同じような事を書いてきましたが、そこに、あらゆる問題を解決する鍵があるように思っています。(今年もまた、様々な機会を通じて皆さまと分かち合う事ができれば幸いです。)

「すべてはひとつ・・・」その意味では、誰かスーパーヒーローが現れて、劇的に世界を良くしてくれることはありません。自分の見ている世界を救うことができるマイ・ヒーローは自分しかいないからです。「自分が動かにゃ何一つ変わらない」というそのことを、20年経ってやっと悟った次第です。(愕然としました!・・・笑っちゃいますね)

今この瞬間にも私たちは未来を選んでいきます。私たちの思いのひとつひとつが、行いのひとつひとつが、すべてこの先の未来を形作ってゆくのです。私たちの「選択」する力こそが、未来を形作る源です。そして誰もがこの宇宙の一部として存在し、それぞれのかげがえのない人生をクリエイト(創造)しています。ともに共鳴・共振し、影響を与えながら、その響き合いの中で未来が紡がれています。

デザイン(計画)すること。世界を、暮らしを、生き方を。デザインの中にある創造の力を解き放つこと。本質とは何か、何のために生きるのか。人間とは、そして、生命とは何か。命を輝かせる生き方をするには、どうすればよいのか……。初心に返ってひとつひとつ答えを出して行きたいと思ひます。

希望の持てない世の中で、あきらめることなく、未来を再び私たちの手に取り戻す事ができますように。そして、健やかで平和な自然あふれるこの地球で、子供たち、孫たちの輝く笑顔を見ながら、この人生に満足して去ってゆく事ができるように、祈りを込めて、毎日の仕事に当たって行きたいと思ひます。

毎回同じような内容の、とりとめのない挨拶になってしまい申し訳ございません。(本当はしつこい性格かもしれませんが、また別の機会にでも……)

本年も皆様のお力添えを頂きながら歩んでまいりたいと思ひます。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

映画「男はつらいよ」を観て

厚別店店長 穂積 豊仁



年賀

本年もどうぞ

宜しくお願ひ致します。

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、格別のご愛顧を頂きまして、誠にありがとうございました。

思い起こせば、旧年中は、恥ずかしき事の数々、深く反省の日々を、過ごしております。まだまだ半人前で、至らない事が多く、お客様にはご迷惑をおかけしておりますが、日々成長できるように、努めてまいりたいと思ひます。

「さあ、物の始まりが一ならば、国の始まりが大和の国、島の始まりが淡路島、泥棒の始まりが石川の五右衛門なら、本物の自然食品店のはじまりが、札幌のまほろばでございます。」

これを読んでお気づきの方も多いと思ひますが、そうです、寅さんです。映画「男はつらいよ」での啖呵売での口上です。

昨年たまたま映画を見る機会があり、寅さんの魅力に一気に引き込まれてしまいました。寅さんの事は昔から知ってはいましたが、じっくりと一本見たことはありませんでした。年を重ねていくうちに、自分自身が、寅さんの年齢と同じくらいになってきたのも原因の一つかもしれません。

「はじめばかりじゃ話にならない、続いた数字が二。兄さん寄ってらっしゃいは吉原のかぶ、仁吉が通る東海道、憎まれ小僧が世にはばかる、仁木の弾正お芝居の上での憎まれ役。」

寅さんが、日本人の心を揺さぶるものは、一体何なのでしょう？少し考えてみたいと思ひます。

何といっても、理屈ぬきでおもしろいという事。泣いて、笑って、感動する。こんな映画は最近、めっきり少なくなってきました。次に、啖呵売の口上の名調子、七五調で語呂がいい。とにかくキレがあつて、心地がいい。日本民族の血液に、脈々と流れる遺伝子に、この、七五調がインプットされているからに違いありません。そして、懐かしさ、毎回、全国各地に旅に出て、映し出される田舎の原風景が、故郷への想いを刺激します。

「続いた数字が三。三三六歩で引け

目がない、産で死んだか三島のお仙、お仙ばかりが女子じゃないよ、京都は極楽寺坂の門前で、かの小野小町が三日三晩飲まず食わずで野たれ死んだのが三十三、とかく三という数字はあやが悪い。」

寅さんは、幸せとは何かを教えてください。毎回、マドンナに恋をしますが、何よりも、彼女の事を第一に考えていて、自分の事はそっちのけです。それどころか、恋敵のためにも奮闘努力し、周りの人が幸せになる事を何よりも自分の喜びとしているのです。

「続いた数字が四。四谷、赤坂、麴町、ちゃらちゃら流れるお茶の水、粋な姉ちゃん立小便、白く咲いたか百合の花、四角四面は豆腐屋の娘、色は白いが水くさい、一度変われば二度変わる、三度変われば、四度変わる、淀の川瀬の水車、たれを待つやらくるると。」

何を自らの喜びとするか、それは人それぞれですが、今年は、寅さんこと、渥美清さんが亡くなって、二十年です。足かけ二十七年、計四十八作、国民に笑いと、涙と、感動を与え続け、周りの人を幸せにするために生きてきました。他人の事を一所懸命に考えること、相手の幸せを心から願うことの大切さを、寅さんは教えてくださいました。

バブル崩壊後、失われた二十年とよく、言われていますが、寅さんのような生き方こそが、今こそ見直される時なのかもしれません。

まほろばが、何か困ったことがあれば、きつと何かの役に立ってくれるそんなふうな、思ってもらえるような、温かみのあるお店になるように、努力したいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

